今月の御教え

一年に分限者になるような心になるな。先は長いぞ。一文二文とためたのは、みてる(尽きる)ことはないが、一時に伸ばしたのはみてやすい。神信心をすれば、我慢我欲はできぬぞ。ぬれ手で粟のつかみ取りの気を持つな。人より一年遅れて分限者になる気でおれ。

……金光教祖御理解　第八十二節……

解説　教祖様は四十六才の時、神様の「人類救済」の悲願を受けられて農業をやめ、全ての田畑を手放し「取次の御用」に専心することになりましたが、それまでは、かつて自作農とはいえ、楽ではない暮らしを、勤勉な養父の遺志を受け継ぎ、家の再興に勤め、生産性を高め収入を増やし、ご自身の家のみならず、弟の家をも新築するなど、家を栄えさせて行かれましたが、その時の心境は「誰にも負けるものか！」とか「他者より早く一足飛びに成功してやろう！」といった思いではなく、この御理解から伺えるように、堅実に地に足をつけて、日々一歩一歩と努力し成果を積み上げていかれたことがわかります。そうして信心においても天地の親神様より絶大な御信頼を頂かれ「生神金光大神」となられたのもこのような生きられ方が基本にあってのことなのだと痛感いたします。

私達も、この教えの如く、日々弛むことなく信心の稽古を積み上げてゆけば、必ずや「安心立命」の大御蔭を頂くことが出来ることをお示し下さっているのであります。

今年は当西条教会においては教会設立百十年の御年柄であります。一層、信心の稽古に励み、徳積みの御蔭を蒙りましょう。